

初冬のくらますは

大雪に阻まれ

どこへくらますや

山 域：くらます 1282 m
場 所：鳥取県
日 時：2005/01/22-23 (土日)
コ ー ス：加治川林道

メンバー：石野・横小路・大塚・
大倉・木倉・恵
天 候：晴れ

金曜日までは岐阜の高鷲スノーパークから大日ガ岳を狙っていたのだが、昨日からの大雪で交通はマヒし、岐阜の山はとんでもない大雪で滑りにならないと思い急遽くらますに変更した。

今シーズン初の山スキーとあってか、早朝からアクシデント多発であった。若手の大本が寝過ごし一向にくる気配なし、恵も寝坊で30分遅れ。そんな事もあり少々いやな予感がしていたのだが、やはり的中。



国道端も雪化粧

暖冬と吟われていたにも関わらず、昨日はまれにみる大雪で29号線の山崎辺りから雪が積もっている。引原ダム周辺から山々は雪化粧をほどこし朝日に照らし出されて目映いばかりだ。スキー客があちらこちらでチェーン付けをしているので国道はノロノロ運転になる。戸倉峠辺りからは雪もピークになってくる。

治の村に駐車する。普段なら加治川沿いの林道で三室高原に抜ける道をコテージまで行けて、そこからの分岐がスタートとなるのだが、とんでもない・・・この加治の村からシールでスタートとなった。装備変更中は天気予報とは裏腹に雪が降り始めたが、すぐに太陽が顔を出し始めてシャツ一枚となって加治川の護岸に積もったモノトーンの景色を楽しみながら久方ぶりにシール歩きに心地よい汗を流した。



加治川沿いモノトーン林道

コテージを右に進んで行くと少しも行かぬうちに林道が崩壊しているのではないかと、去年の台風23号で流されてしまったのだろう・・・この先も大丈夫だろうか？、と不安がよぎる。林道は1mほどだがパッキリと口を開けて湧水が勢いよく流れている、



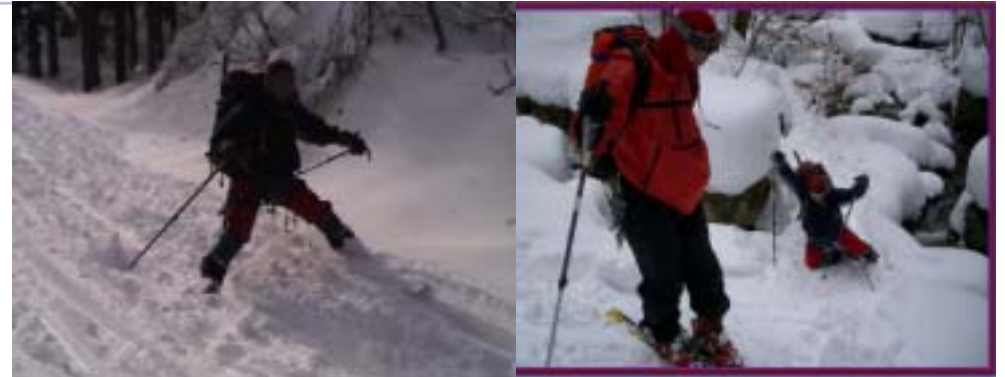
MURANO も敗退！

峠を下って中原の信号を左折すると加治の村は豪雪地帯に変貌していた。しかし、強引に大倉氏の大型新車 MURANO のバンパーで雪を押しつけて進むが100mも行かぬまに進まなくなり仕方なくバックして加



絵になるコテージ

それに丸木が一本かけてあり雪で覆われてあたたかも50cmほどの道幅に見えて惑わされる。慎重に丸木にかかった雪をブーツで払い込みながら進む。



情けない滑りと転倒続きの木倉

再びシールでさくさくと快適に高度を上げて行くと、またまた不安が的中！。林道が縦横無尽に寸断されているではないか！。その寸断された間はやはりすべて1m以上の間隔が空いてその全てがスノーブリッジになっている、今にも崩れそうな所もあり慎重にスキーをブリッジ代わりにして恐る恐る

く進んだころにやっと1000m付近で左に九の字に曲がった鞍部に着く。この右の沢が冬季のくらすの登り地点だ。昨年度石野氏が枝に赤テープをしっかりと巻き付けている。しかし時間は1時半を過ぎているし、ここからの斜面はかなりの急登であり雪も全くに落ちていないので本日はここまでとした。

帰りは林道ピストンなので早いことこの上ない、寸断されていた所も無事にクリアして1時間ほどで駐車場着。お疲れさんでした(T_T)。

疲れを温泉で癒して、明日の氷ノ山へアタックのために若桜ゲレンデの駐車場にテント設営。テント内でスキ焼きパーティをして今シーズンの山スキー談義で大いに盛り上がり、心地よい快眠に入る。

しかし明朝の天候は一変してどんよりとして氷ノ山山頂付近は濃いガスに覆われているではないか！、これでは登ったとしても不快でスキーどころではないと判断し、即刻中止の決断。代わりにゲレンデスキーを半日楽しむことにした。しかしゲレンデはオフピステ以外では2~3本も滑ればすぐに飽きてしまうのは私だけでしょうか？。

なにはともあれ、今シーズンも楽しく
山スキーができますように・・・
山の神に合掌



林道寸断

渡って行き、行き詰まった所では尾根の急斜面に取り付き悪戦苦闘である。シーズン始めのシールトレーニングには少し過酷である。

高度も900mも過ぎる頃にはラッセルもブーツが隠れるくらいになり男衆5人で先頭交代しながら一列縦隊でどんどん進んで行く。程良

山 域：氷ノ山 1510 m
場 所：兵庫県
日 時：2005/01/29 (土)
コ ース：流れ尾根～東尾根

寒空に 雪とたわむれ 氷ノ山

メンバー：石野・大塚・大倉・大本
天 候：晴れ

1月にしてはめずらしく週末の晴れが続いている、しかしこの日曜からは数年ぶりの大寒波がやって再び山は大荒れとの予報だ。

コースは氷ノ山国際スキー場のリフトを使い、最短の流れ尾根から山頂を狙うことにした。

しかし、天気は晴れにもかかわらず、風が強い・・・、やっぱりリフトは最下部しか可動していない。登山事務所に届けを出して聞くと、まだ運行できないとのことで仕方なくシールを付けてスキー客をよそにゲレンデを登り始めた。最上部にたどり着く頃にやっと運行し始めた。

最上部からはノートレースの新雪ラッセルで20cmほど沈むが北斜面

は風もさえぎられて、杉林の木漏れ日浴びた中を心地よく登行して行く。流れ尾根にたどり着く頃には、いつも通りに2mほどの雪庇ができあがり板を外してキックステップを刻んで尾根にたどり着く。

流れ尾根斜面は全て雪で閉ざされている。まだ雪も落ち着きがないので雪庇も崩れておらずクラックもできていない。いつものようにシール登山限界に入り、担ぎでアイゼン登行に装備変更する。急斜面では当然に四つん這いである。



ゲレンデをシールで登る



見事なシュカブラと雪庇



急斜面にあえぐ

12月末に来たときはまだまだ笹がでていて悪戦苦闘したが冷たいながらも雪の感触を楽しみながらアイゼンを効かせて登るが日が上がるに連れて雪がモナカ状態になり雪団子になり始めて往生し始める一面もあった。しかし北斜面のトラバースに入ると雪面気温も冷えて再びアイゼンがほどよく効き始める。

山頂付近には若桜氷ノ山のリフトを利用して上がって来ている山ポーターがちらほらという。今日は横さんも夫婦で若桜から上がって来ている。山頂小屋で落ち合うつもりだったが、三ノ丸から山頂の稜線は風が強く、途中のモンスターと化した杉林でラーメンタイムをとってから下山メールが入ってきていた。

我々は小屋で昼食を済まし、北斜面の様子うかがいに出かける。雪質は申し分なく北壁をカッ飛んでいく。氷ノ山越えまで滑ろうかと思ったが今日はコシキ岩直下にドロップインして再び山頂小屋へ引き返した。

東尾根の千本杉辺りはモンスターと化していてその中を縦横無尽に滑り、快適に下って行く。

一ノ谷への急斜面も雪付きがよくすんなりと滑降でき、いつも難儀する東尾根稜線もスムーズに登っては下りでアツという間に東尾根避難小屋にたどり着いてしまった。

後は東尾根への取り付きの急斜面の杉林の滑降だが、ここは雪付きがよくても狭くて急なのでいつも難儀する場所である。ここで大倉氏が勢いあまって滑落！・・・もう少しで頭を木に直撃するところだった。



心配そうに見守る石野氏

あとはスキー場を駐車場の登りリフトまで快適にぶっ飛ばし、The End。



山頂小屋へ



さあ、滑降だ！



一ノ谷へ滑り込む



コシキ岩直下へドロップイン



三ノ丸方面



大空に舞うドラゴン



千本杉モンスター



雪面を這うモンスター